



やさしく  
かしこく  
たくましく

平成29年11月29日(水)

文責 園田

### 学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

日が暮れるのがすっかり早くなり、朝夕は10℃以下に冷え込むことが多くなりました。早いもので間もなく12月。いよいよ『冬』の到来です。登校する子ども達の上着も少し厚めの暖かそうなものが増えてきました。風邪気味の子はいますが、少し広がりかけたインフルエンザも今のところ落ち着き、ほっとしているところ です。

# 日本では 2007年に生まれた子どもの半分は 107歳まで生きる

## 今の4年生の半分は107歳まで生きる。

しばらく前のことになりますが、上記のような予想がされ話題となっていたことをご存知でしょうか？これは『ライフ・シフト 100年時代の人生戦略』というベストセラー本の中に書かれている予想です。現在の長寿時代、それが今後ますます進み将来的には人生100年が当たり前になると言われているようです。

**2007年生まれといえば、現在10歳。4年生の子ども達**ということになります。2017年3月1日、厚生労働省が公表した第22回生命表によると、日本人の平均寿命はますます延びており、男性80.75歳、女性は86.99歳で過去最高を更新したそうです。上記の予想は、いわゆる平均寿命とはちょっと意味合いは違いますが『**50パーセント以上が107歳以上生きることになる**』との予想があることは大きな驚きです。

もしこの予想通りとなれば、今の子ども達はその半分以上が、変化の激しいこの世の中、そして更に激しく変化していくであろう今後の世の中を、ごく当たり前にも100歳以上まで生き抜いていかななくてはならないのです。

この著書の中では単に年齢のことを言いたい訳ではなく、「人生100年時代となると働き方や生き方を变化させる必要がある。」ということが書かれています。今までは、下記のように人生を大きく3つのステージに分けて考えることが普通でした。

- ① 教育 (0歳～20歳前後) ② 仕事・労働 (20歳前後～60歳前後) ③ 引退・老後 (60歳前後～80歳前後)



それが、今後多くの人々が100歳以上まで生きる時代となればどうでしょう？現代では、55歳～65歳くらいが定年という職場がほとんどだと思いますが、退職後40年～50年を働かずに生きていくことになり大変です。今後、医学等のさらなる発達で健康で暮らせる日々が長くなると考えられるからこそその予想のはず。従って働き方も変わり、将来は「定年退職」も70歳や80歳となっているかもしれません。ただ、そこまで働くには**心も体も、健康で元気であることが基本**ではないでしょうか。そうでないと仕事も何もできませんし、生きがいをもって、楽しく豊かに暮らすことはできません。

またIT化等の情報通信技術を始め、日常生活における時代の変化もすさまじいものがあります。私が子どもの頃の10年と、現代の10年ではその変化の密度はあまりにも違うように感じます。今後ますます加速化するでしょう。(最近50年とその前の50年の歴史を振り返ってみても全然違う世の中になっていますね。)

**私たちが今、関わり、育てているのは、今だけでなく、そんな時代を生きることになる子ども達なのです。**

そんな時代背景に鑑み、平成32年度からは新しい学習指導要領(学校で学習すべき基準)に基づいた学習が始まります。(移行期間として、平成30年度から実施するものもあります。)

小学生という今の段階において、そんな将来・未来を、かしこく、強く、そして優しく、たくましく生き抜くための様々な力の土台や基礎を身に付ける必要があります。学校教育に携わる者として、また「親」としての役目と責任は重大であると改めて感じています。ご家庭におかれましても、「親」としての立場からのお力添えをお願いいたします。手と手を取り合い、連携・協力して、子ども達を伸ばし育てていきたいですね。